

住まい・子育て・結婚に関するアンケート調査結果

目次

1	調査概要	3
2	回答者の属性	4
3	調査結果	8
	(1) 生活や住まいについて	8
	(2) 子育てについて	13
	(3) 結婚についての考え方・イメージ	29
	(4) 若い世代が暮らしやすい安城市をつくるために	34

1 調査概要

本調査は、若い女性がふるさとを離れずにすむ地域社会、あるいは希望があればふるさとに戻れる地域社会の形成に着目し、結婚や出産、子育て等の現状や課題認識等を把握することを目的として実施するものです。

調査の概要は下表のとおり。

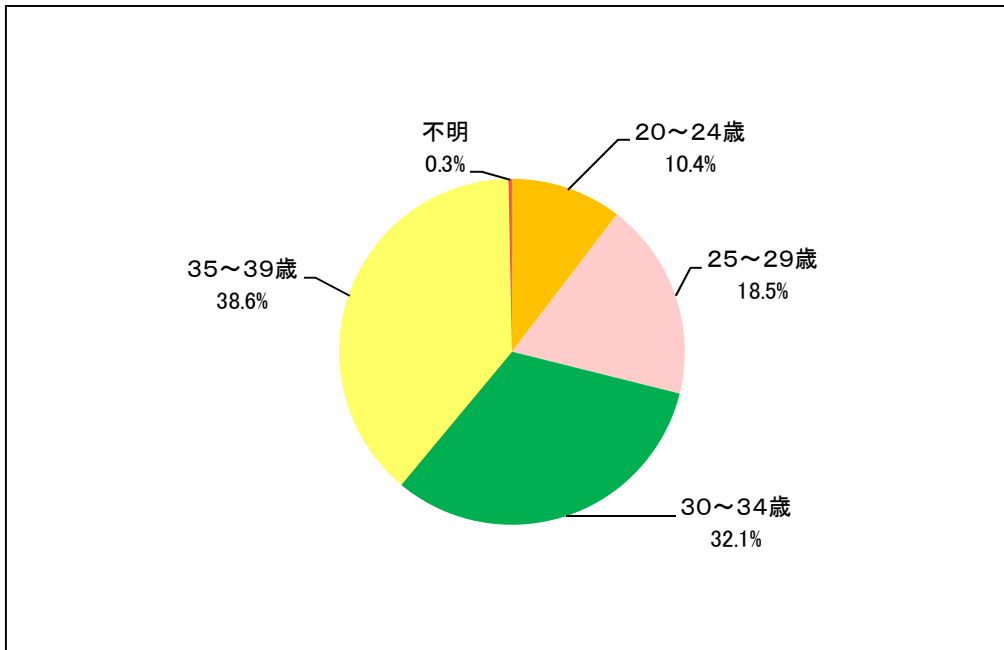
アンケート調査の概要

調査対象	本市にお住まいの 20～39 歳の若年女性
調査方法	郵送による配布・回収
抽出方法	住民基本台帳から 1,000 名を無作為抽出
調査期間	2015 年 5 月 26 日（発送）～6 月 3 日（投函期限）
主な調査項目	<input type="checkbox"/> 生活や住まいについて <ul style="list-style-type: none"> ・ 安城市の住みやすさ ・ 今後の定住意向とその理由 ・ 20 歳代後半から 30 歳代で近くの市に転出する傾向のある理由 ・ 安城市より、住んでみたい、暮らしやすいと思う近隣の市 <input type="checkbox"/> 子育てについて <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の「理想の子どもの人数」、「現在」の子どもの人数 ・ 理想とする子ども数を持たないとした場合の理由 ・ 不妊についての不安や悩み ・ 父親の育児や家事への参加状況 ・ 職場における子育ての両立しやすさ ・ 今後充実すべき子育て支援方策 ・ 子育てに関する相談や情報収集の状況 <input type="checkbox"/> 結婚についての考え方・イメージ <ul style="list-style-type: none"> ・ 結婚の利点 ・ 将来の結婚意向 ・ 結婚していない理由 <input type="checkbox"/> 若い世代が暮らしやすい安城市をつくるために <ul style="list-style-type: none"> ・ 若い世代にとって暮らしやすい安城市をつくるために充実すべきこと
回収状況	有効回答数：312 部 （有効回答率：31.2%）
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設問文末の記号について、「SA」は単回答、「MA」は複数回答、「NA」は数値記述、「FA」は自由記述となる。 ・ グラフ下の「n=〇」は該当する回答数を示す。 ・ 回答の集計は、選択肢の回答数を総回答数で除したものを%表記しているが、小数第 2 位を四捨五入しているため、各回答の合計が 100%とならない場合がある。

2 回答者の属性

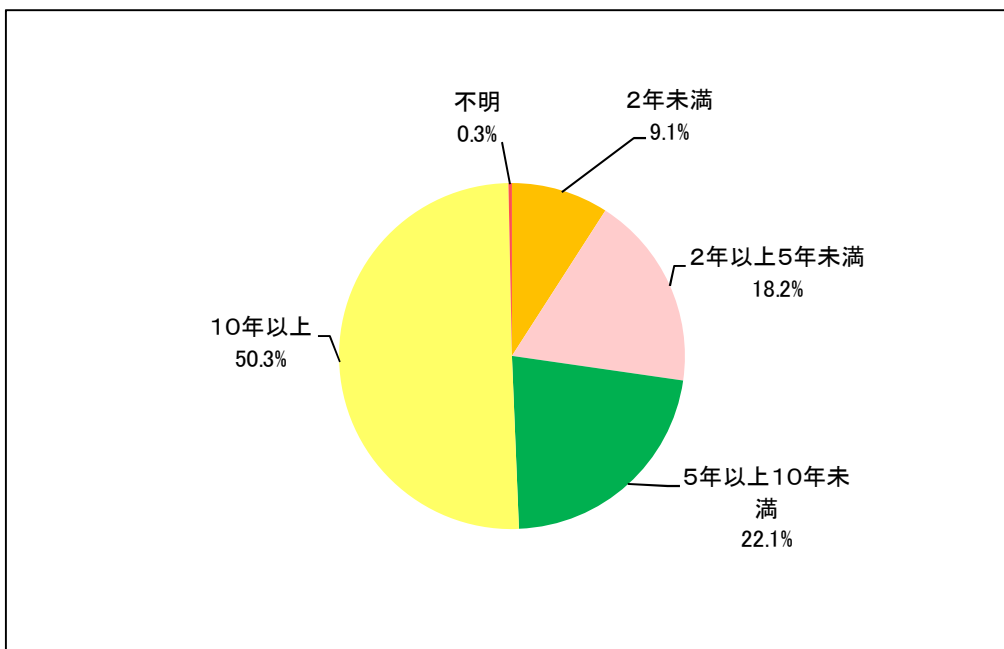
問1	回答者の属性について (SA)
----	-----------------

①年齢



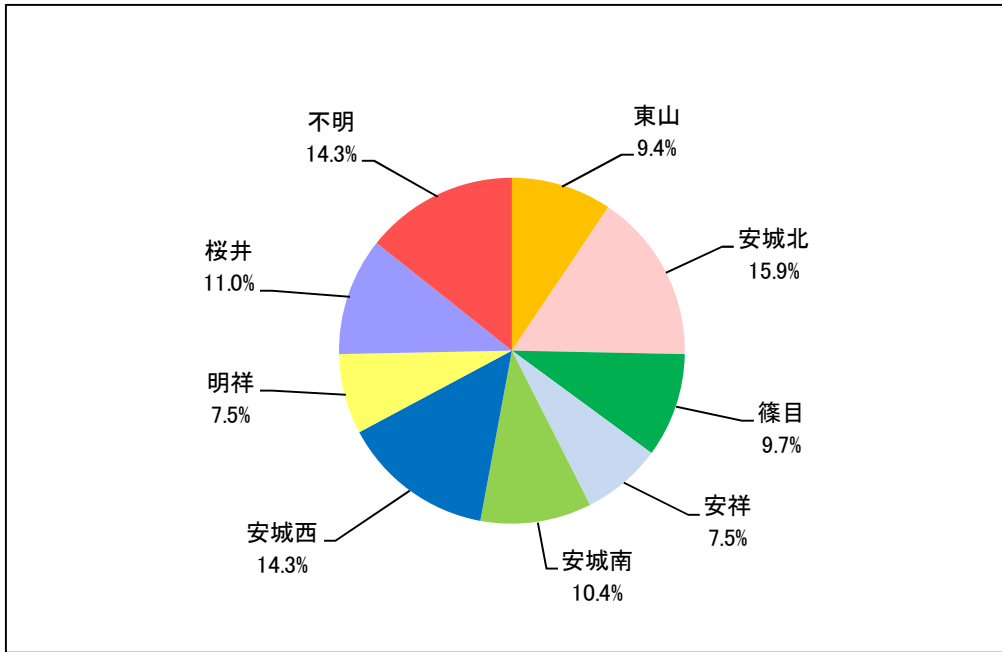
(n=312)

②安城市での通算の在住期間



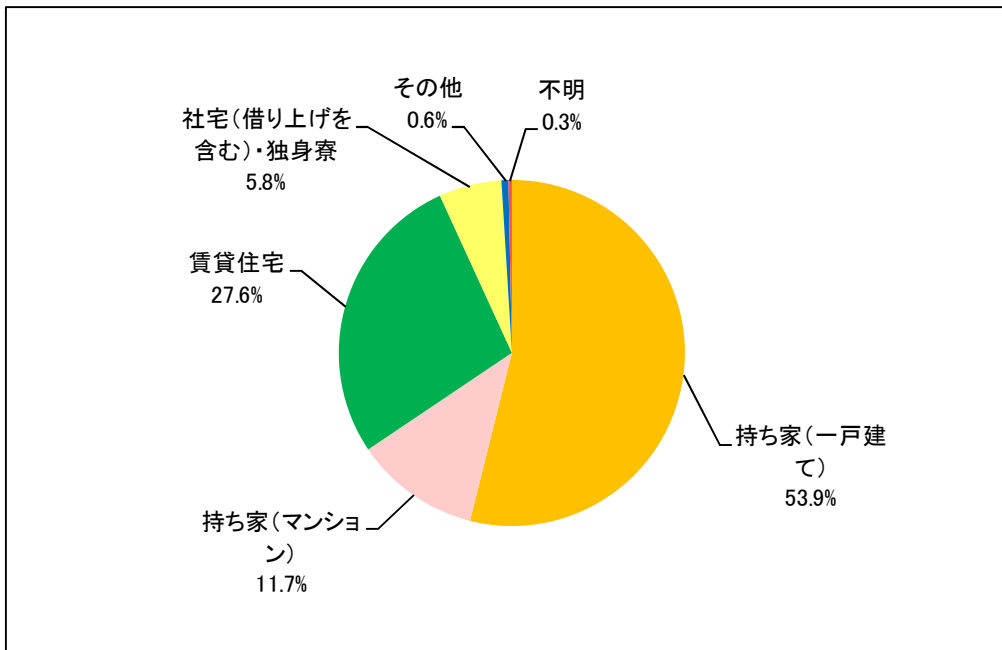
(n=312)

③現在お住まいの地区



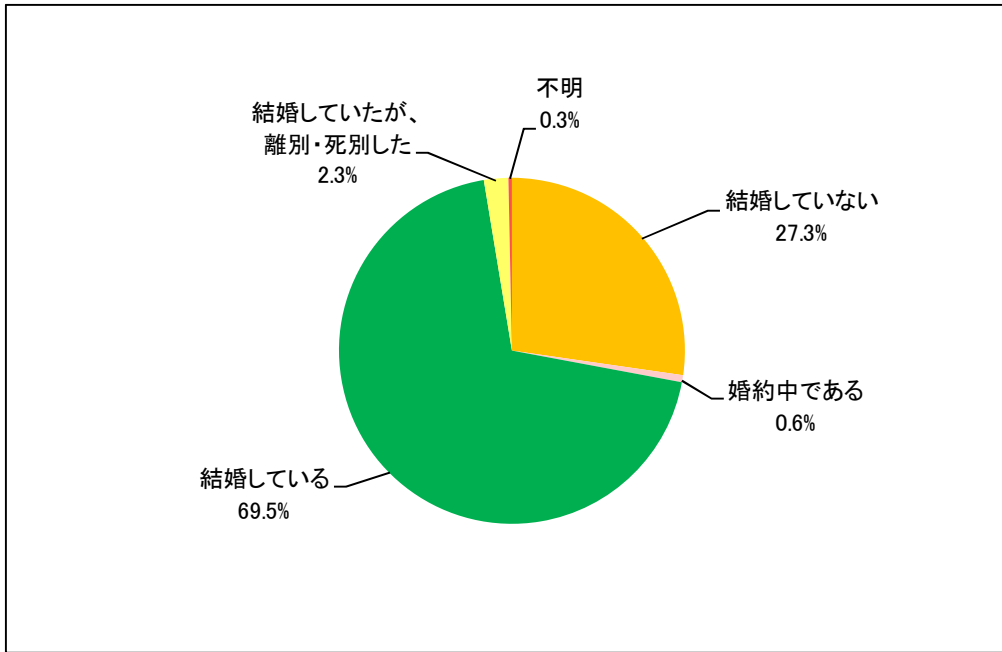
(n=312)

④住まい



(n=312)

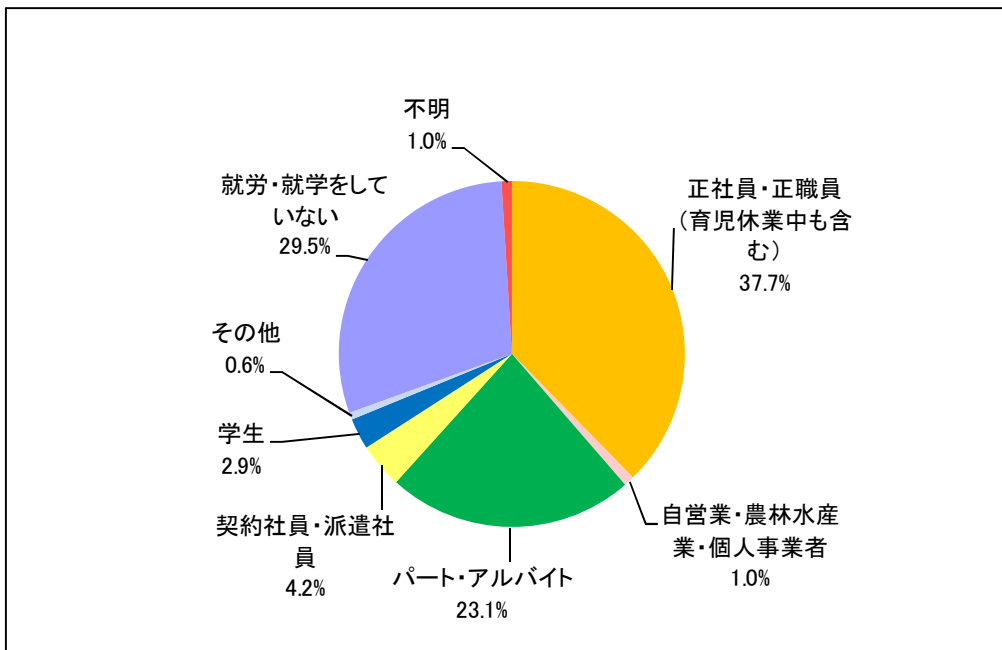
⑤結婚の有無



(n=312)

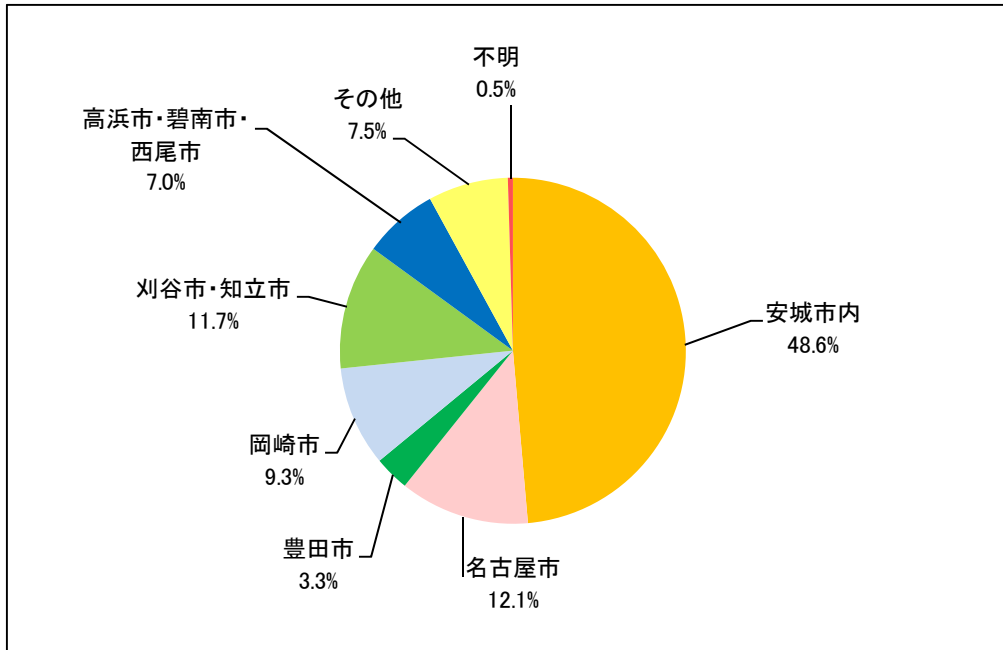
⑥職業

(収入を伴う就労（家業の手伝いも含む）を対象とし、家事やボランティア活動は除く)



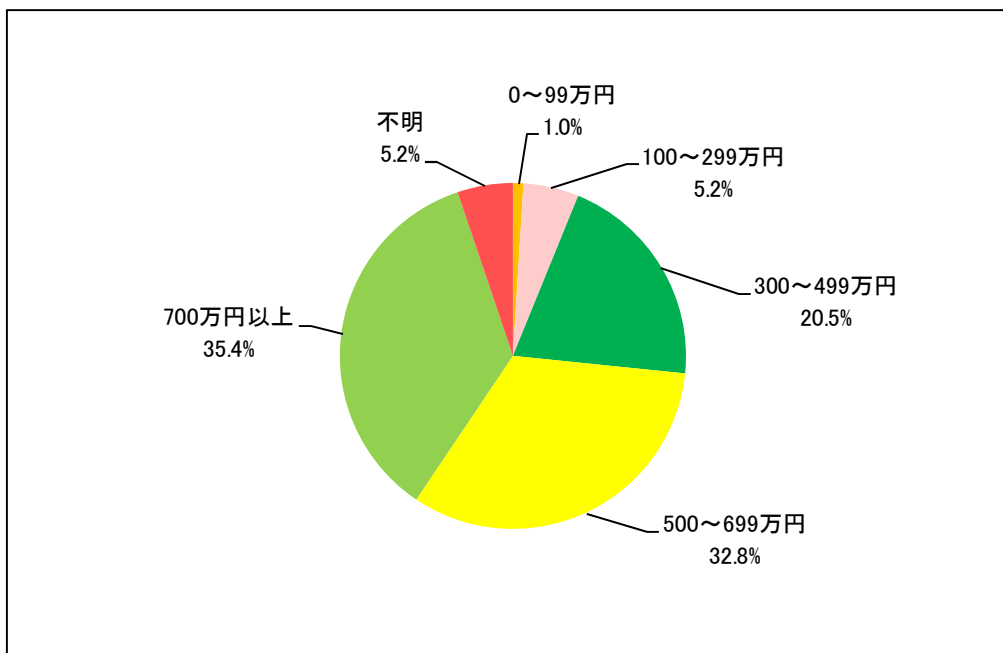
(n=312)

⑦勤務先や通学先の所在地（就労・通学をしていない人を除く）



(n=312)

⑦家族全員の年収(平成26年)の合計



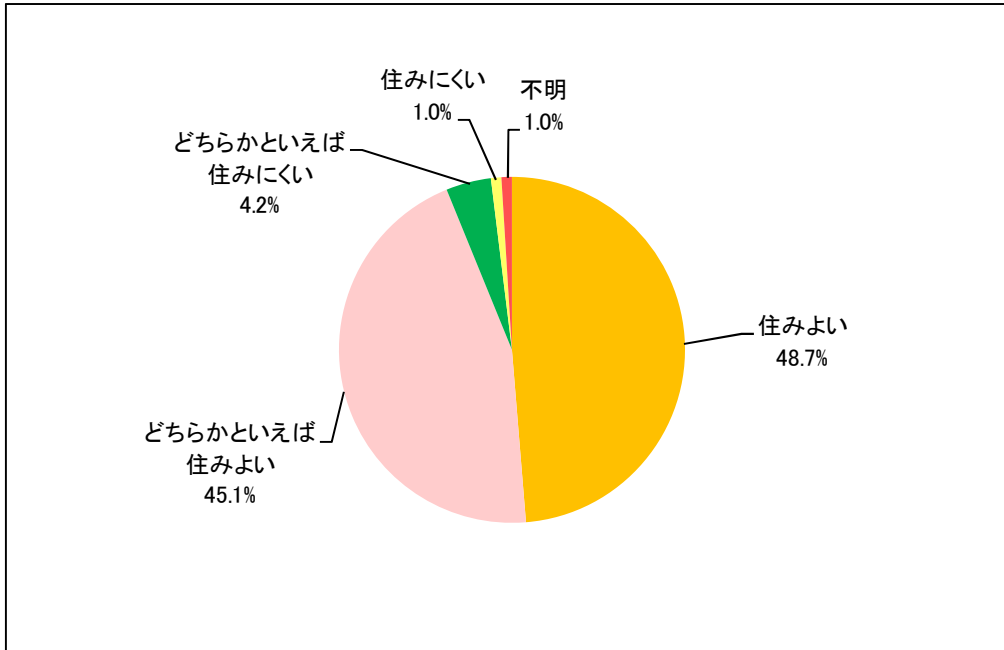
(n=312)

3 調査結果

(1) 生活や住まいについて

問2	安城市の住みやすさについて (SA)
----	--------------------

「住みよい」が 48.7%で最も多く、「どちらかといえば住みよい (45.1%)」を合わせると、すみやすさを評価した人が 9 割を超えます。

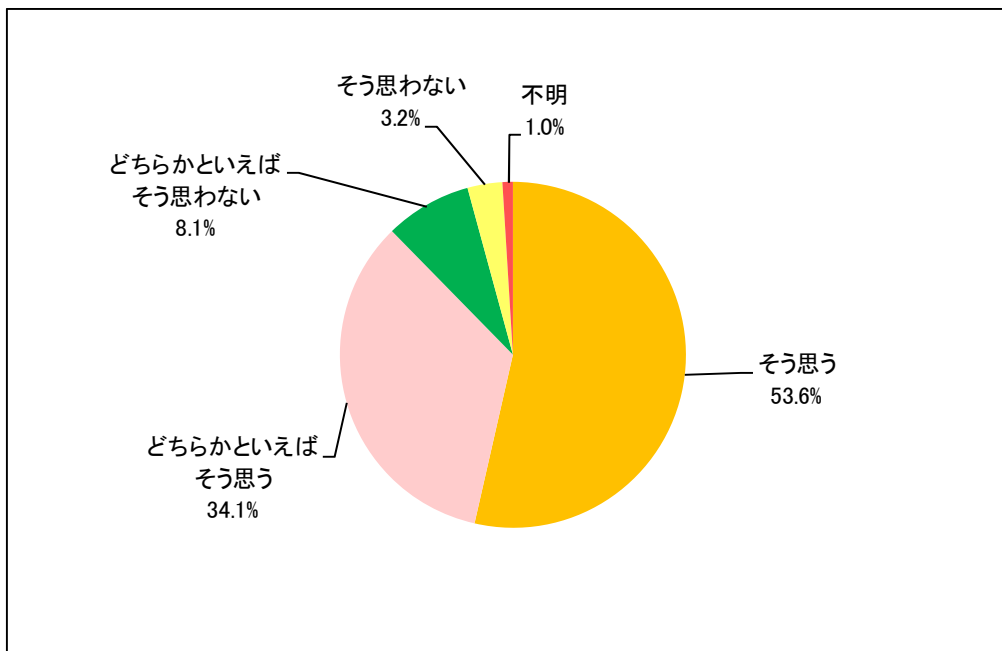


(n=312)

問3

今後も安城市に住み続けたいと思うか (SA)

「そう思う」が 53.6%となり、半数を超えています。また、「どちらかといえばそう思う (34.1%)」を合わせると、9割近くが住み続けたいとしています。



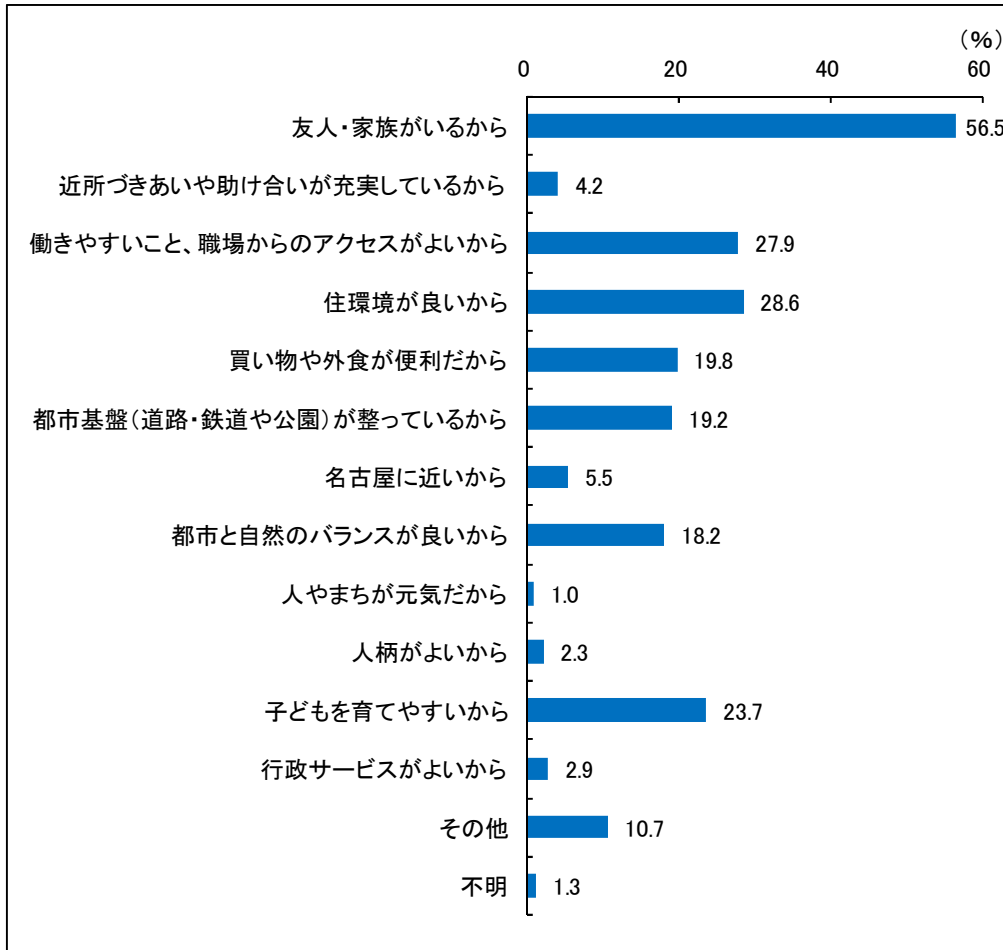
(n=312)

問4

安城市で住み続ける理由（MA:3つまで選択）

「友人・家族がいるから」が56.5%と半数を超えており、他の項目と比較して突出して多くなっています。

この他、「住環境が良いから（28.6%）」、「働きやすいこと、職場からのアクセスがよいから（27.9%）」、「子どもを育てやすいから（23.7%）」の順となっています。



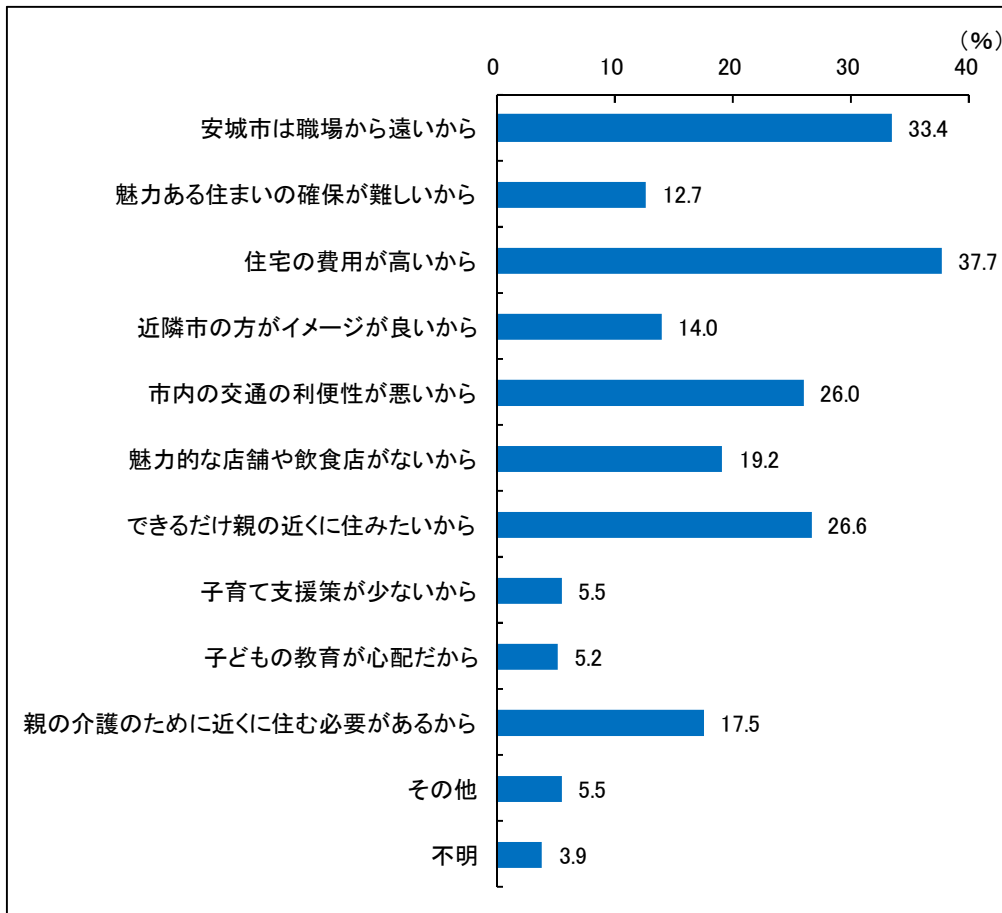
(n=312)

問5

20歳代後半から30歳代で、近くの市に転出する安城市民がみられますが、どのような理由と思うか（MA：当てはまるもの全て選択）

「住宅の費用が高いから」が37.7%で最も多く、結婚や持ち家取得により新たな住宅に住み替えを行う際に、価格の高さがネックとなっていることがうかがえます。

また、「安城市は職場が遠いから」が33.4%、「市内の交通の利便性が悪いから」が26.0%となり、移動利便性の悪さを認識している人が3割前後あることがうかがえます。「できるだけ親の近くに住みたいから」も26.6%あり、親元から離れて生活している人も少なくないことが推察されます。

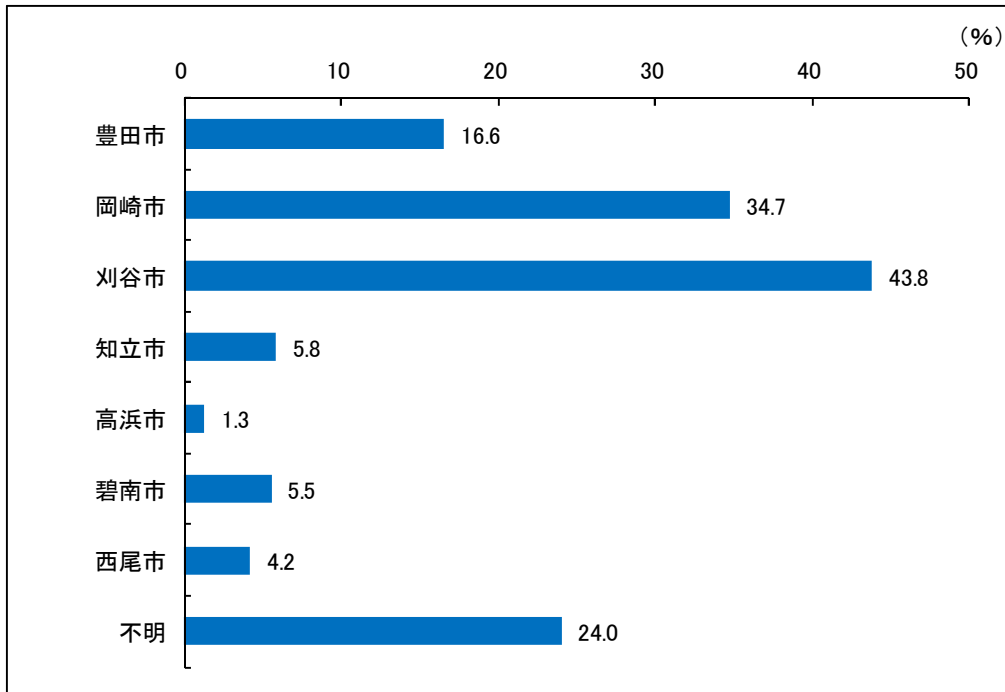


(n=312)

問6

安城市より、住んでみたい、暮らしやすいと思う近隣の市について
(MA:当てはまるもの全て選択)

「刈谷市」が43.8%で最も高くなっていますが、実際の転出数は少なくなっています。次いで、転出数の多い「岡崎市」が34.7%ありますが、同様に転出数の多い「高浜市」は僅か1.3%にとどまっており、暮らしやすさのイメージと実際の移動の実態に乖離があることがうかがえます。

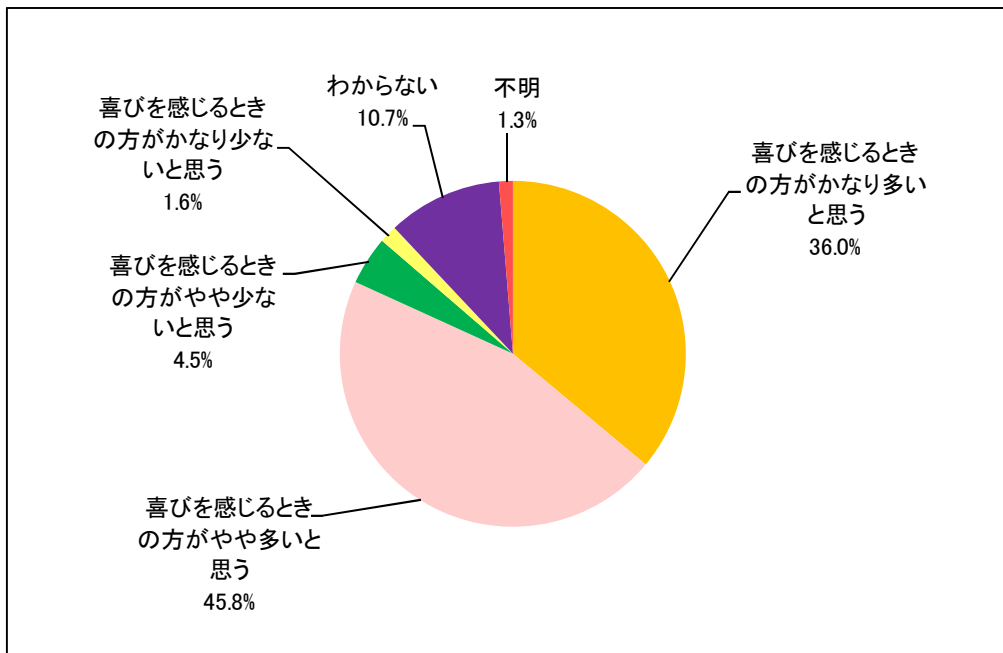


(n=312)

(2) 子育てについて

問7	「子育て」をどのように思うか (SA)
----	---------------------

「喜びを感じる時のほうがやや多いと思う」が 45.8%で最も多く、「喜びを感じる時のほうがかなり多いと思う (36.0%)」を合わせると約 8 割が子育てを「喜びを感じるもの」ととらえています。

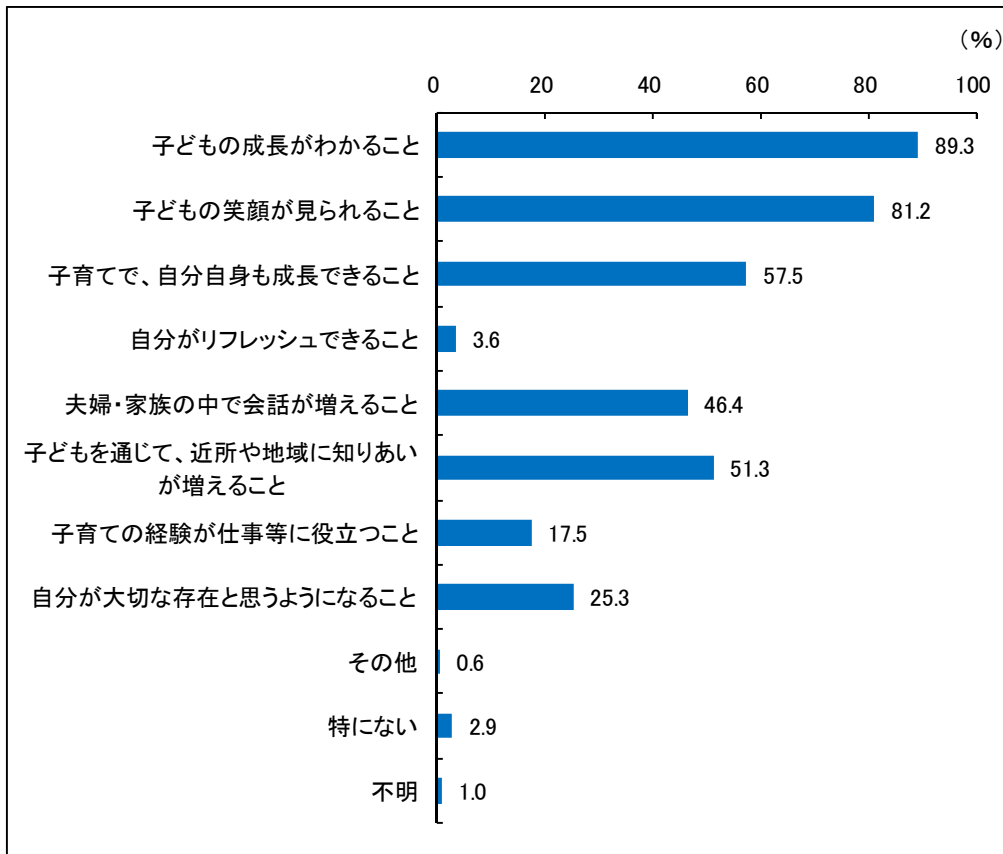


(n=312)

問8 「子育て」は、どのような楽しさがあると思うか (MA:当てはまるもの全て選択)

「子どもの成長がわかること」が 89.0%、「子どもの笑顔が見られること」が 81.2%となり、これら2項目について、ほとんどの人が子育ての楽しさとして認知しています。

また、「子育てで、自分自身も成長できること (57.5%)」や「子どもを通じて、近所や地域に知りあいが増えること (51.3%)」についても、半数以上が楽しさとして認知しています。

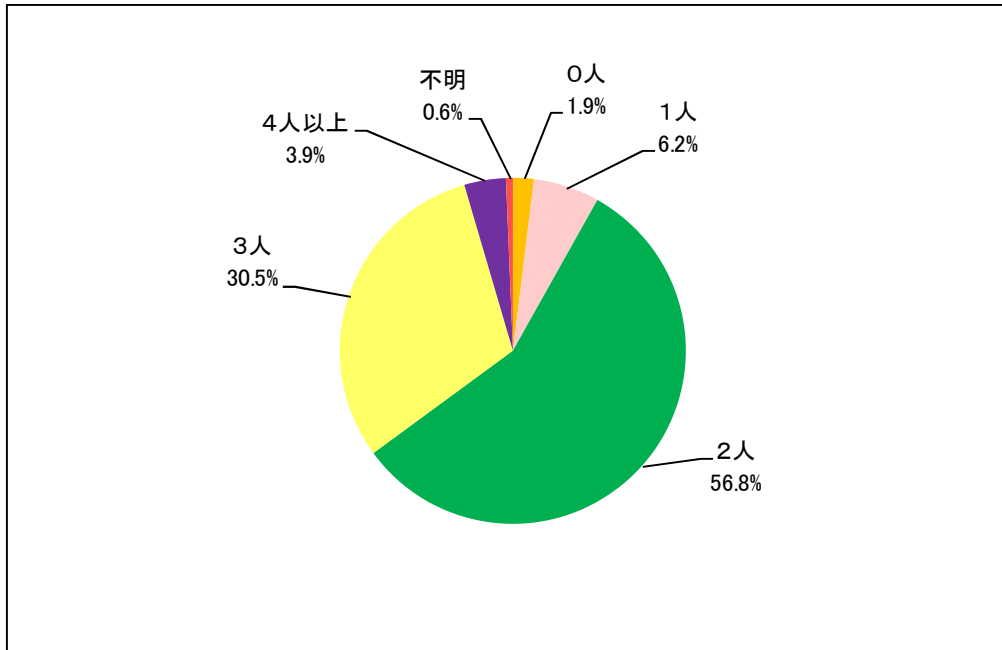


(n=312)

問9

将来の「理想の子どもの人数」(SA)

「2人」が56.8%で最も多く、次いで「3人」が30.5%となります。なお、4人以上を選
択した人を4人とすると、不明を除く「理想の子どもの人数」は平均で2.29人となります。



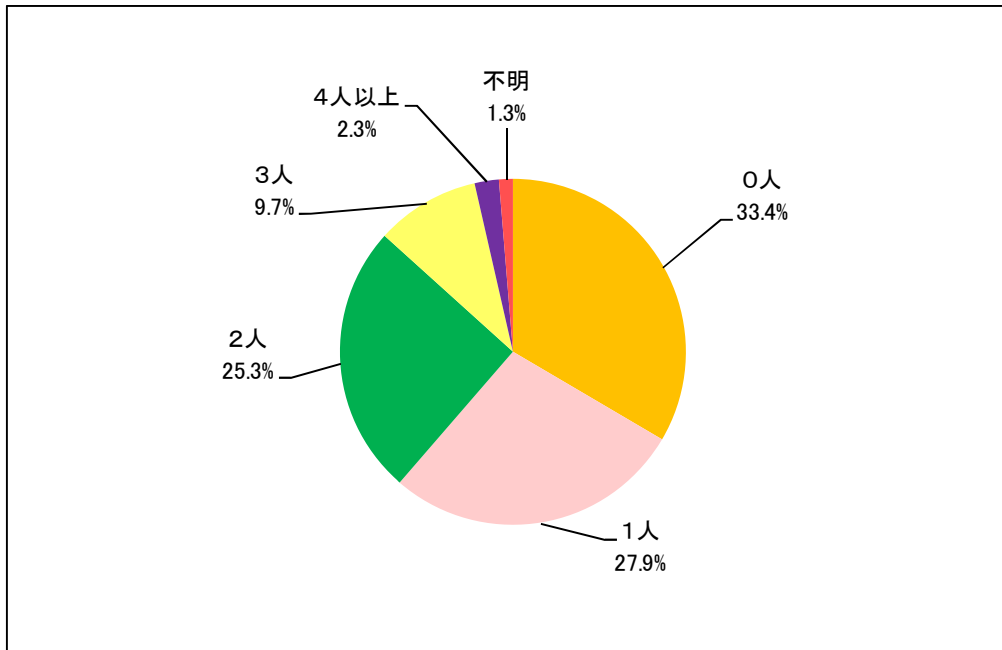
(n=312)

問10

「現在の子ども的人数」と年齢（SA）

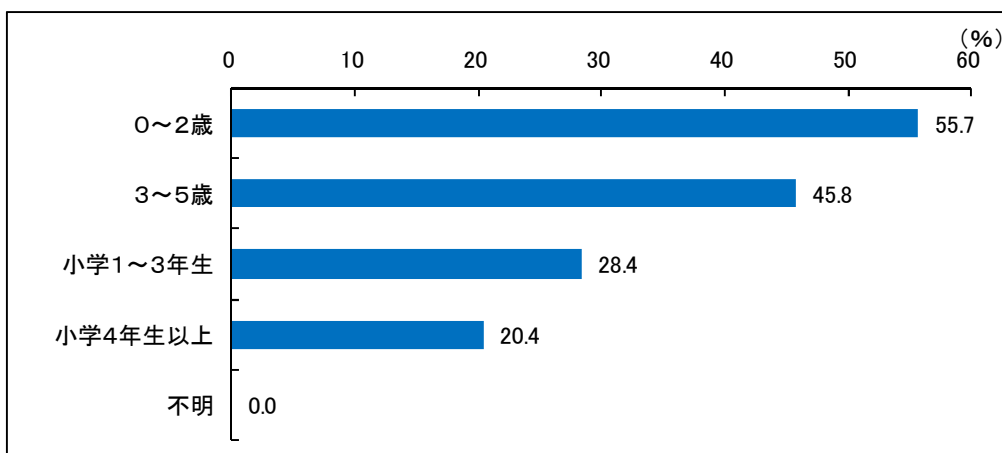
<4月2日時点の年齢、4月2日以降の出産の場合は0歳>

「0人」が33.4%で最も多く、「1人」が27.9%、「2人」が25.3%の順となります。なお、4人以上を選択した人を4人とすると、不明を除く「現在の子ども的人数」は平均で1.19人となります。



(n=312)

「0～2歳」が55.7%で最も多く「3～5歳」が45.8%となります。今回の調査対象となる女性の年齢を20～39歳としていることから、乳児の割合が高くなったと考えられます。

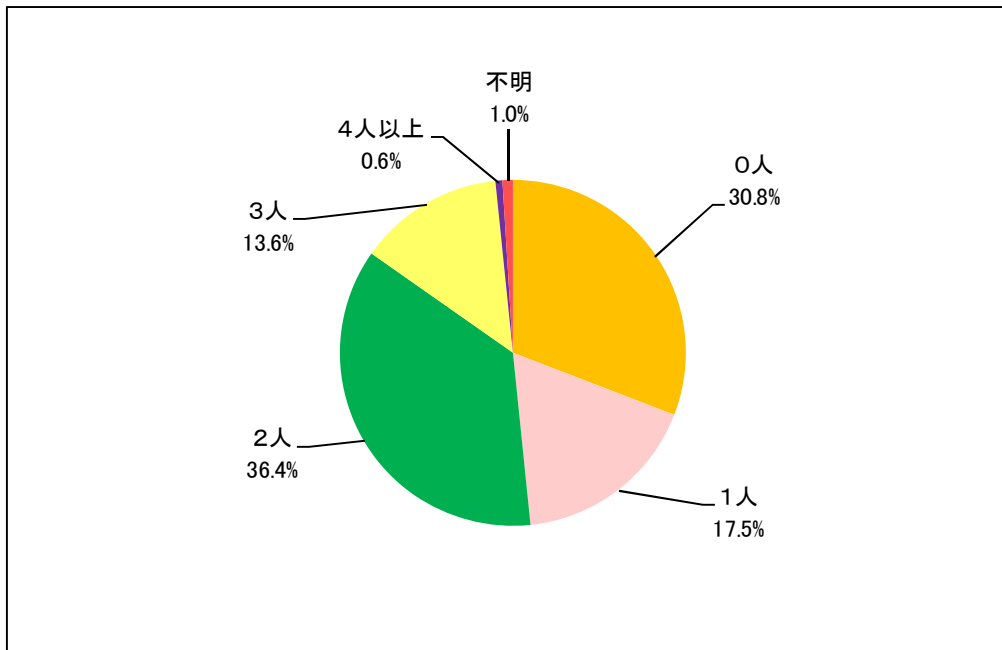


(n=205)

問11 これから何人の子どもを持ちたいか (SA)

「2人」が36.4%で最も多く、「0人」が30.8%、「1人」が17.5%の順となっています。なお、4人以上を選択した人を4人とする、不明を除く「これから持ちたい子どもの人数」は平均で1.36人となります。

「これから持ちたい子どもの人数」と「現在の子ども的人数」を合わせると2.55人となり、「理想の子ども的人数」である2.29人を上回っています。一般的には、前者が後者を下回りますが、このような調査は15～49歳を対象となるため、異なる結果が出ていると考えられます。

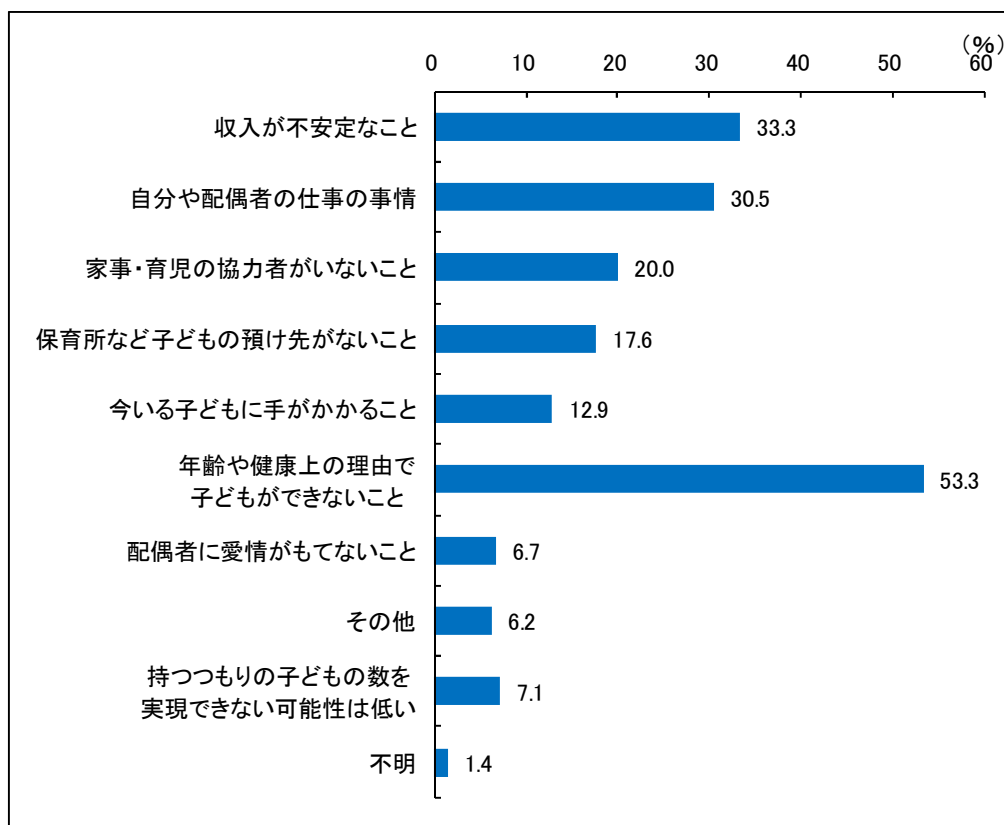


(n=312)

※ 問11で「1～4人」を選択した人のみ

問12	今後持つつもりの子どもの人数が結果的に持てないとした場合、どのような原因の可能性が高いか（MA:当てはまるもの全て選択）
-----	--

「年齢や健康上の理由で子どもができないこと」が 53.3%で半数を超えており、晩婚化などが子どもの出生に影響を与えうると考えられます。次いで、「収入が不安定なこと（33.3%）」や「自分や配偶者の仕事の事情（30.5%）」が 3 割を超えており、経済面や仕事と子育てを両立する環境も、子どもを持つうえでの判断材料になると考えられます。

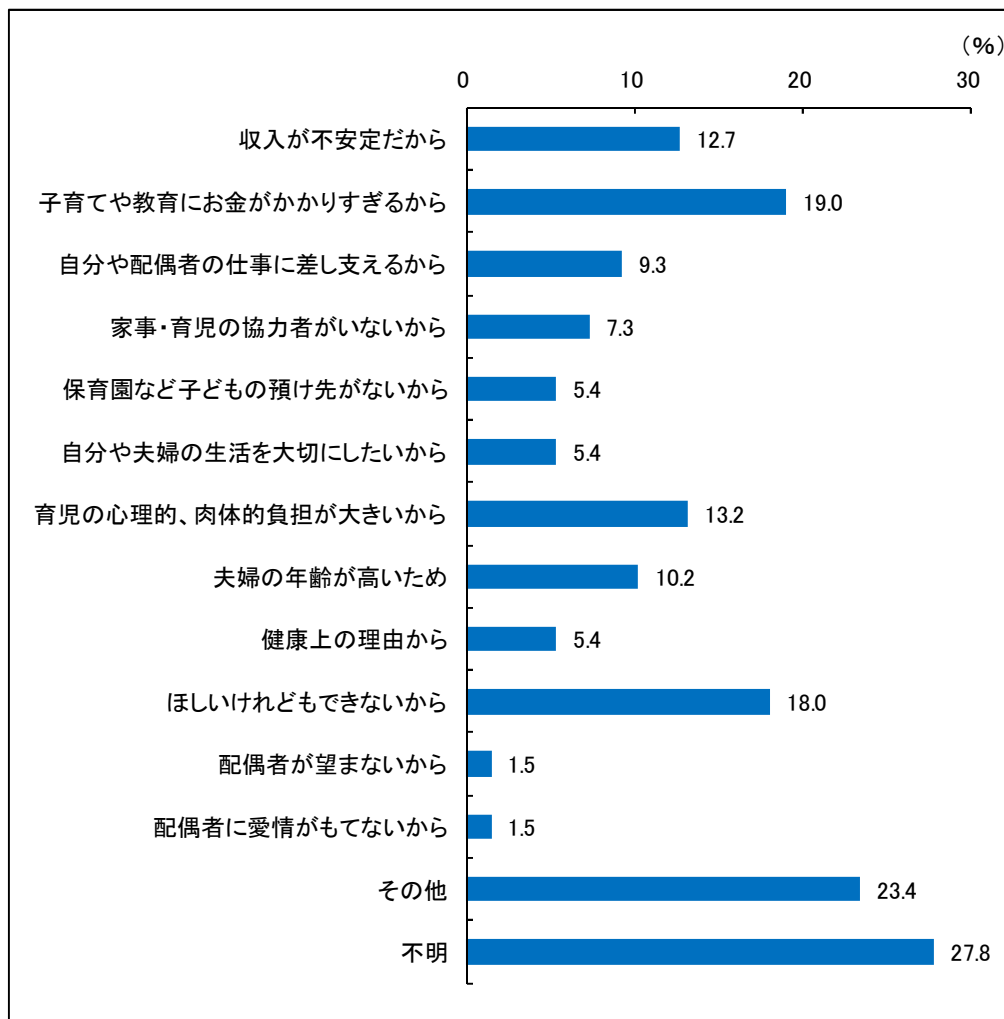


(n=214)

※ 問10の「現在の子ども的人数」が問9の「理想の子ども的人数」より少ない人のみ

問13	持つつもりの子どもの人数が、理想とする人数より少ないのは、どのような理由によると思うか（MA:3つまで選択）
-----	--

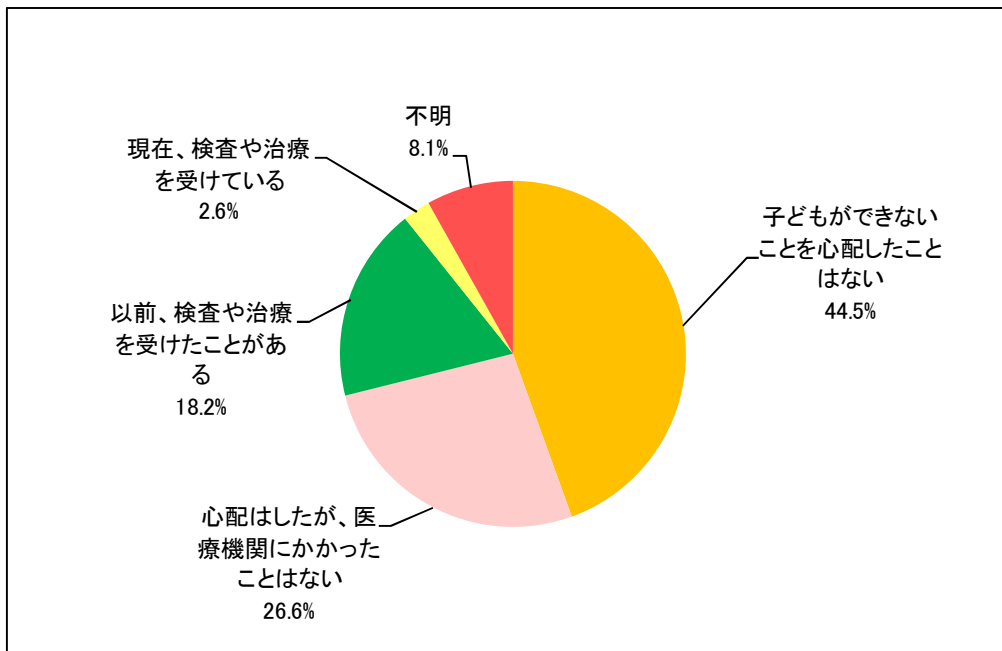
回答は分散傾向にありますが、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから（19.0%）」や「ほしいけれどもできないから（18.0）」が約2割で最も多くなっています。



(n=208)

問14 不妊についての不安や悩みについて (SA)

「子どもができないことを心配したことはない」が44.5%で最も多くなっています。一方、「以前、検査や治療を受けたことがある」が18.2%あり、「現在、検査や治療を受けている(2.6%)」を合わせると、約2割が不妊治療の経験があります。さらに、「心配はしたが、医療機関にかかったことはない(26.6%)」を合わせると47.4%となり、心配したことのない割合を上回ることがわかります。

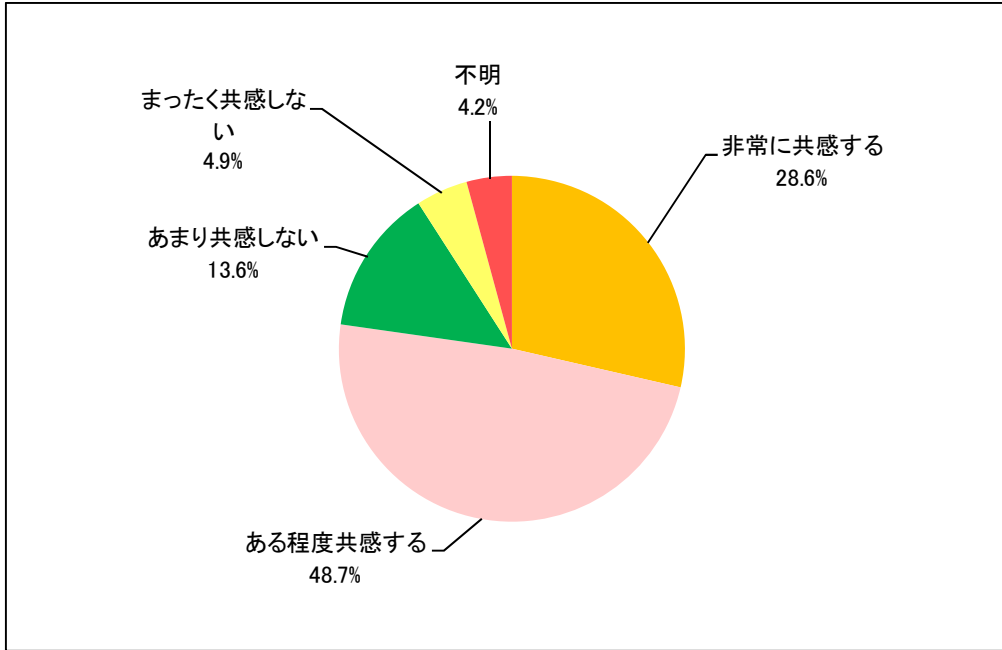


(n=312)

問15

「仕事と家庭の両立を図ることが、若い世代の子どもを産み育てやすい環境につながる」という考えについて (SA)

「ある程度共感する」が48.7%で最も多く、「非常に共感する (28.6%)」を合わせると、8割近くが共感するとしています。

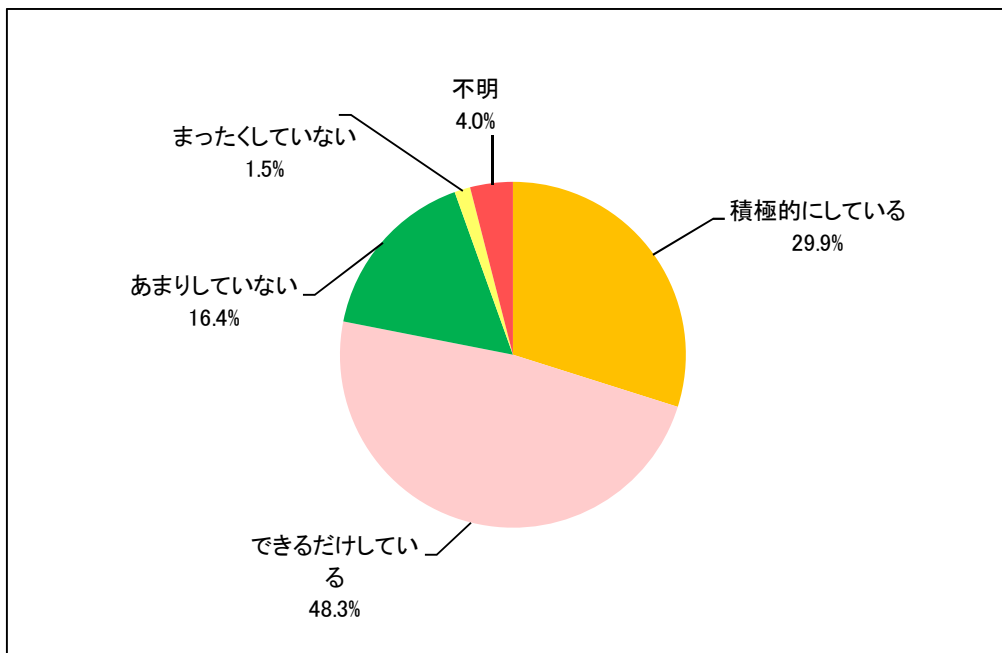


(n=312)

※ 子どもがいる人(ひとり親家庭を除く)のみ

問16	男性保護者(父親)は、積極的に育児や家事をしているか (SA)
-----	---------------------------------

「できるだけしている」が 48.3%で約半数に達しています。また、「積極的にしている (29.9%)」を合わせると、男性保護者の子育てを概ね評価している割合が約 8 割を占めており、育児や家事への参加が一般的になっているといえます。

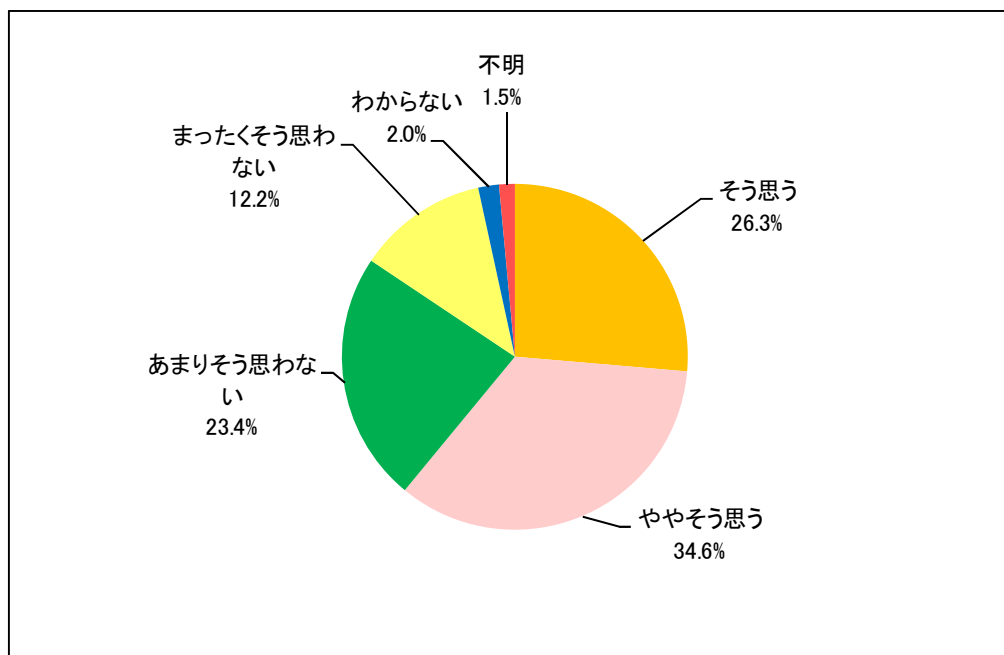


(n=205)

※ 就労している人のみ

問17	あなたの職場は、子育てをする人(男女問わず)にとって働きやすいか (SA)
-----	---------------------------------------

「ややそう思う」が 34.6%で最も多く、「そう思う (26.3%)」を合わせると、約 6 割が現在の職場が子育てとの両立をしやすいとしています。一方、「まったくそう思わない」も 12.2%みられます。



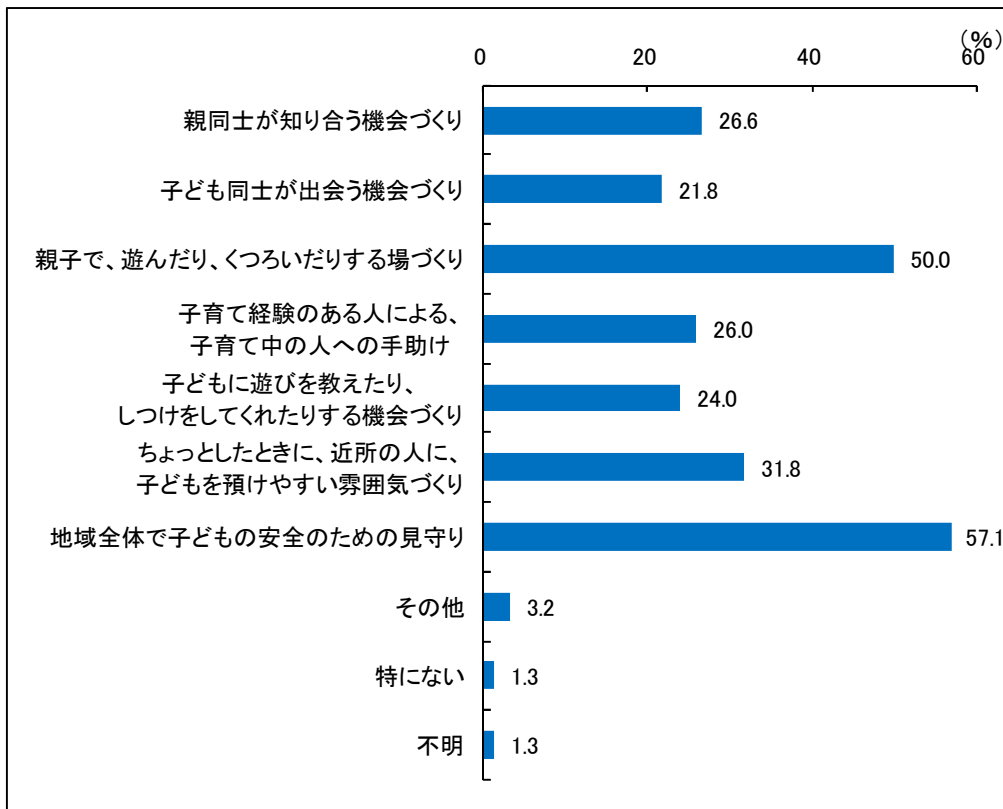
(n=207)

問18

子どもを育てていく上で、「身近な地域」で、どのような支援が充実するとよいか
(MA:3つまで選択)

「地域全体で子どもの安全のための見守り」が 57.1%で最も多く、「親子で遊んだり、くつろいだりする場づくり (50.0%)」の上位 2 つが半数を超えています。

また、「ちょっとしたときに、近所の人に子どもを預けやすい雰囲気づくり (31.8%)」も約 3 割のニーズがあります。この他、「親同士が知り合う機会づくり (26.6%)」、「子育て経験のある人による、子育て中の人への手助け (26.0%)」、「子どもに遊びを教えたり、しつけをしてくれたりする機会づくり (24.0%)」、「子ども同士が出会う機会づくり (21.8%)」が 2 割を超えており、多種多様なニーズがあることがうかがえます。



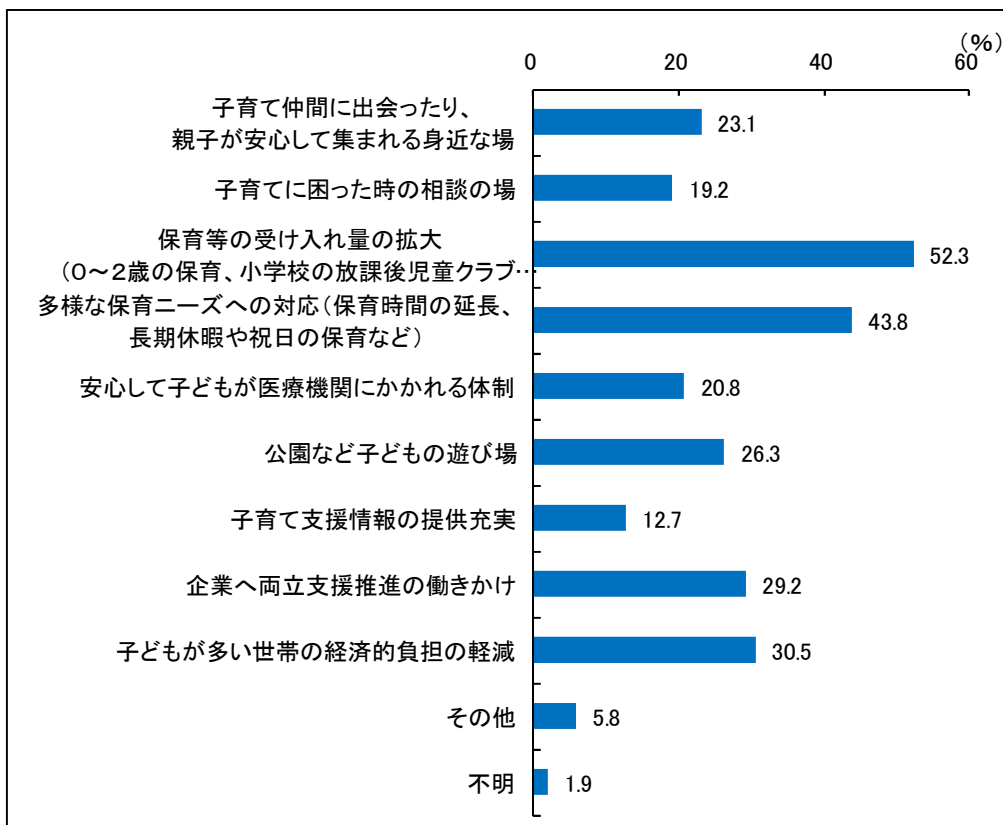
(n=312)

問19

安城市の子育て環境について、今後、どのような取組を「もっと充実する」必要があるか（MA:3つまで選択）

0～2歳の保育や小学校の放課後児童クラブなど「保育等の受入量の拡大」が52.3%で最も多く、半数を超えるニーズがあります。また、保育時間の延長や長期休暇や祝日の保育など「多様な保育ニーズへの対応（43.8%）」も4割を超えており、保育の量と質の両面から高いニーズがあるといえます。

この他、「子どもが多い世帯の経済的負担の軽減（30.5%）」や「企業への両立支援推進の働きかけ（29.2%）」も約3割あり、経済面での負担が大きくならないような支援が求められています。

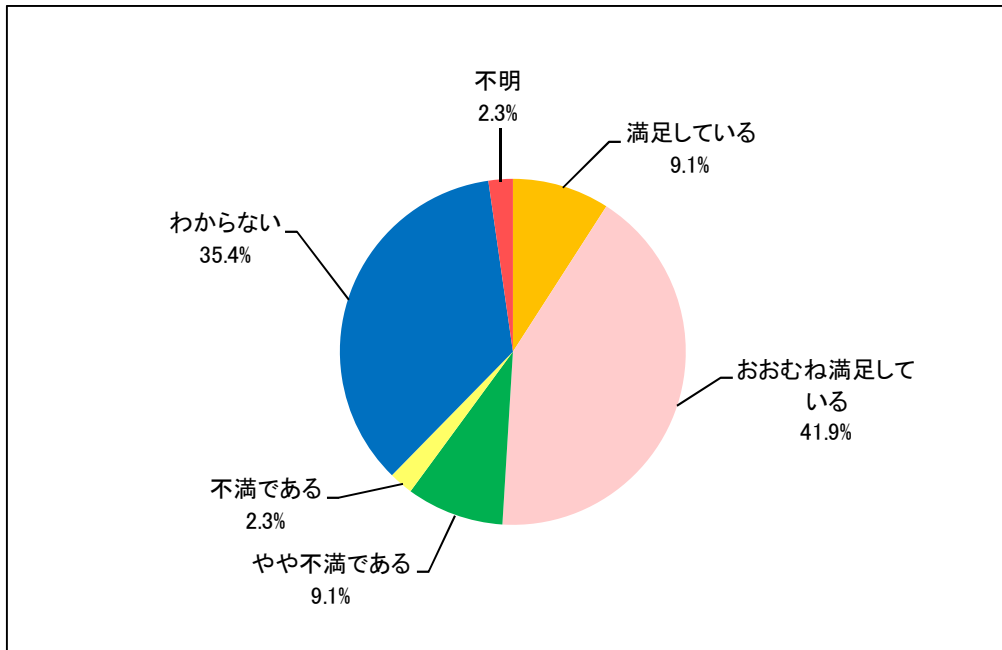


(n=312)

問20

安城市の子育て環境の満足度について (SA)

「おおむね満足している」が 41.9%で最も多く、「満足している (9.1%)」を合わせると、約半数が満足しているといえます。一方で、「やや不満である (9.1%)」と「不満である (2.1%)」を合わせると約 1 割にとどまり、安城市の子育て環境は概ね評価されているといえます。



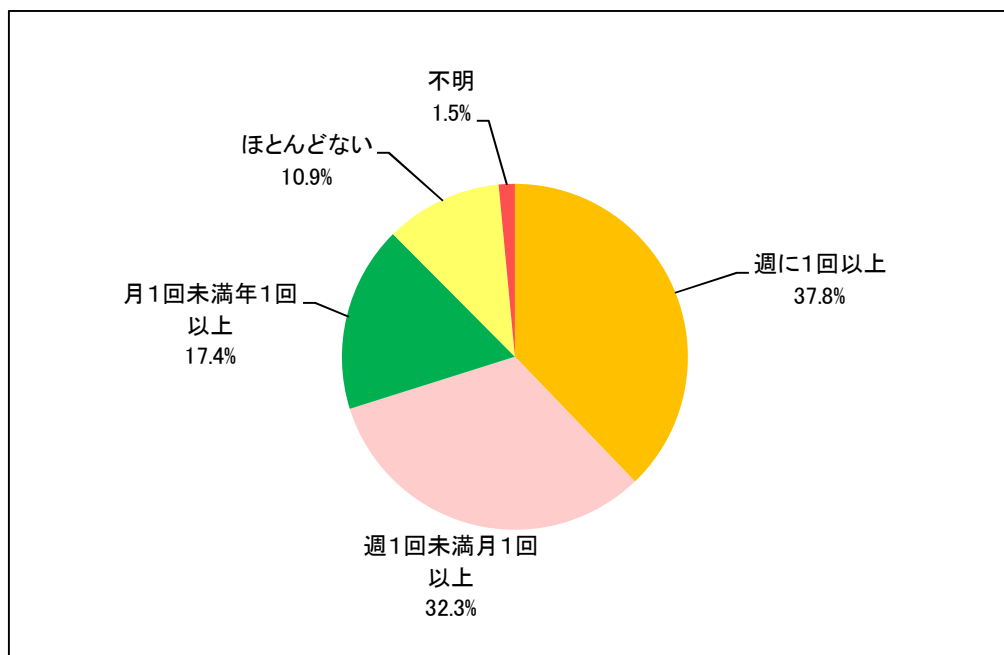
(n=312)

※ 子どもがいる人のみ

問21	子育てで困ったことがあるときに、相談や情報収集を行っているか（SA）
-----	------------------------------------

A. 父母・親族

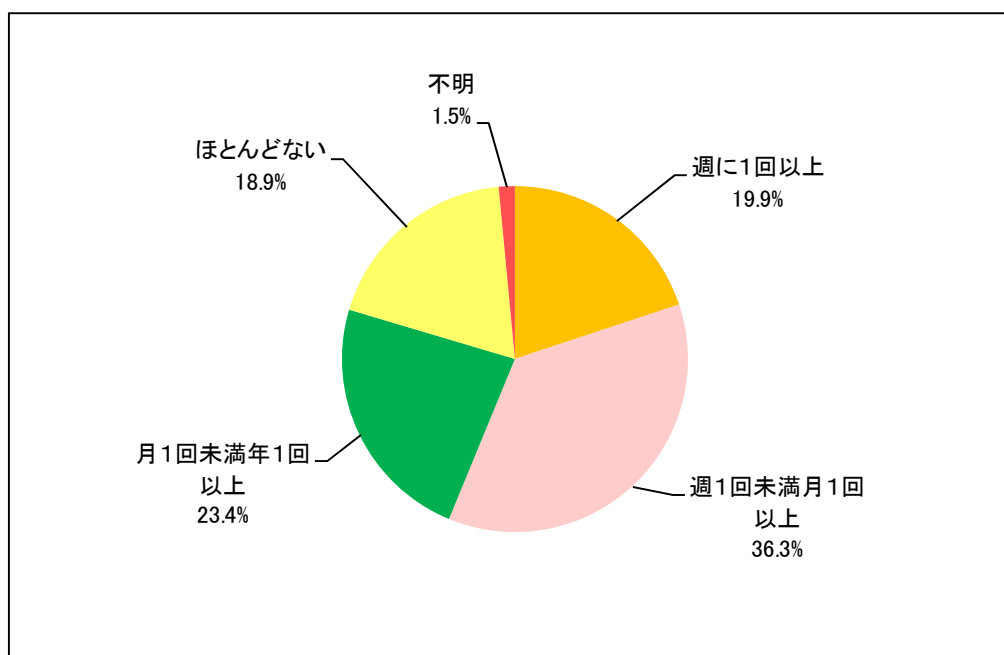
「週に1回以上」が37.8%であり、4割近い人は、父母・親族に対して常に相談などができる状況にあります。



(n=312)

B. 近所の人・知人

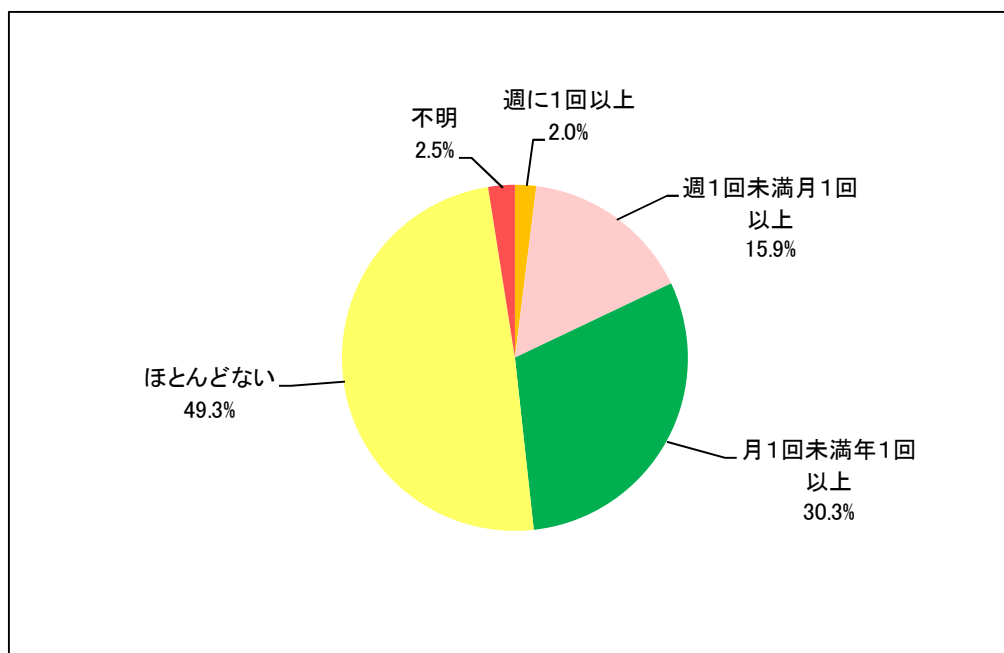
「週1回以上月1回未満」が36.3%で最も多く、「週に1回以上」は、父母・親族の約半分あまりの19.9%となります。



(n=312)

C. 学校・園・保健センター等公共機関での相談

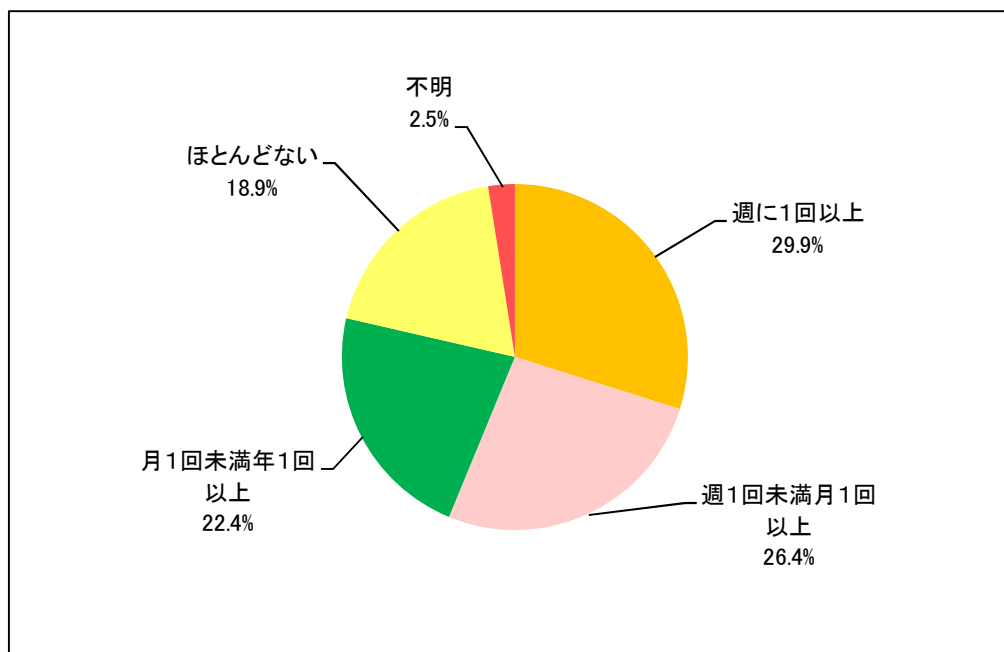
「ほとんどない」が 49.3%であり、半数が公共機関には相談していない状況にあります。一方、「週に1回以上」は 2.0%であり、積極的な利用者のいることがわかります。



(n=312)

D. インターネット

「週に1回以上」が 29.9%で最も多く、父母・親族に次いで多くの方が頻繁に利用しています。一方、「ほとんどない (18.9%)」も約 2 割あり、必ずしも全ての方がインターネットを利用した相談や情報収集を行っていないことがわかります。

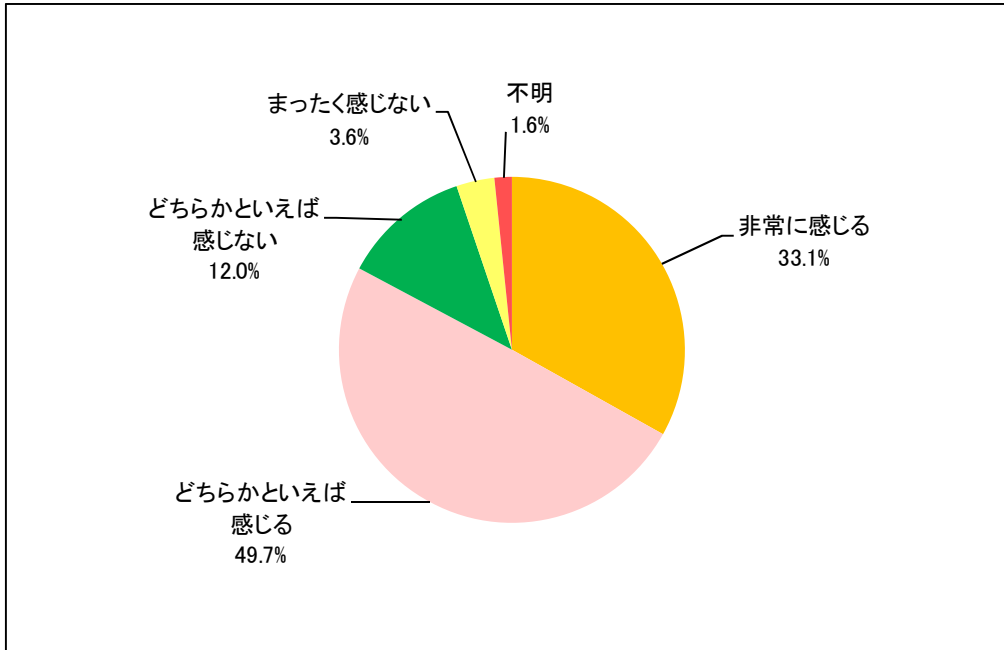


(n=312)

(3) 結婚についての考え方・イメージ

問22	「結婚」に、喜びや希望を感じるか (SA)
-----	-----------------------

「どちらかといえば感じる」が 49.7%で最も多く、「非常に感じる (33.1%)」を合わせると、8割以上が結婚に対して喜びや希望を感じるとしています。

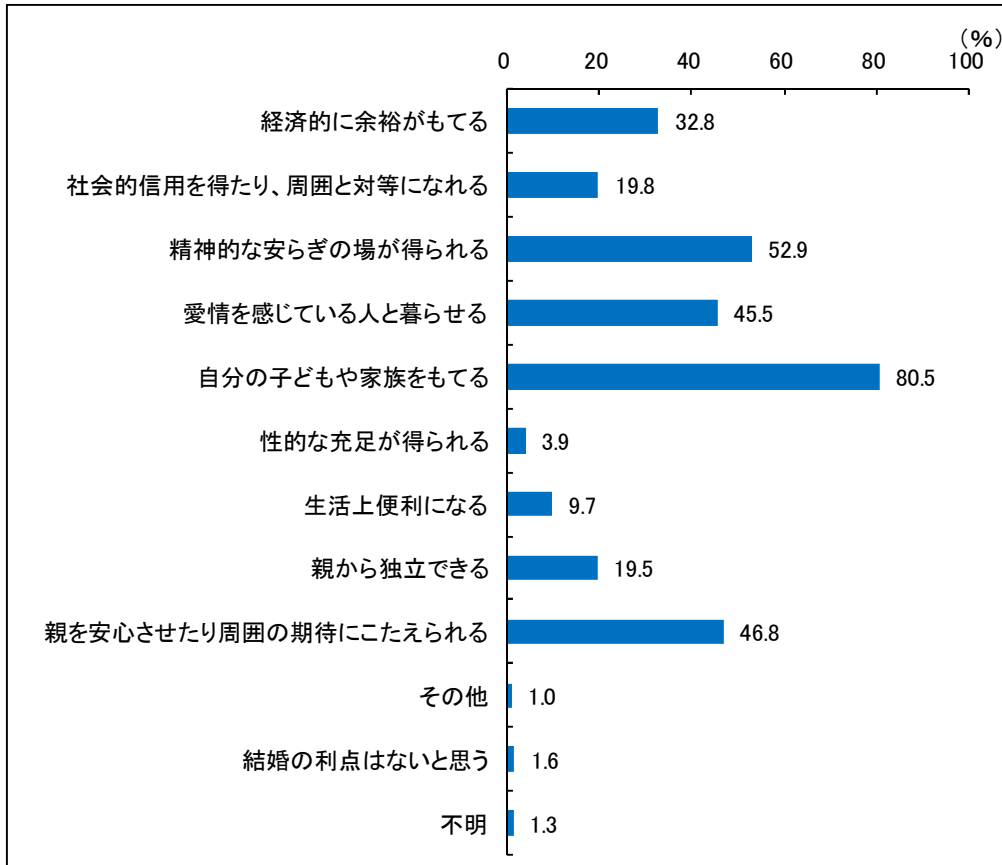


(n=312)

問23

結婚の利点について（MA:当てはまるもの全て選択）

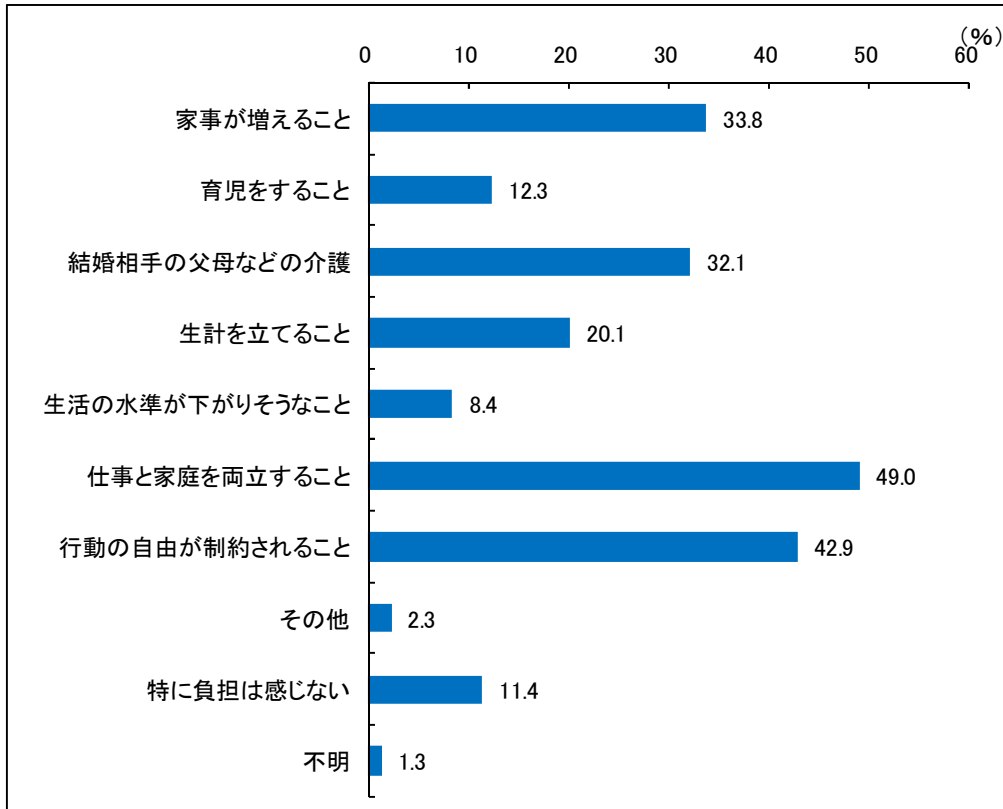
「自分の子どもや家族をもてる」が 80.5%となり、突出して多くなっています。また、「精神的な安らぎの場が得られる (52.9%)」や「愛情を感じている人と暮らせる (45.5%)」といった自身の精神的な安定とともに、「親を安心させたり周囲の期待にこたえられる (46.8%)」といった社会的体裁についても、高くなる傾向があります。



(n=312)

問24 あなたが結婚に負担を感じるのは、どのようなことか（MA:3つまで選択）

「仕事と家庭を両立すること」が49.0%で最も多くなっています。次いで、「行動の自由が制約されること（42.9%）」や「家事が増えること（32.1%）」など、親元から離れる、あるいは配偶者と比べて負担が増えることを前提とした家庭生活の負担が増えることを挙げています。



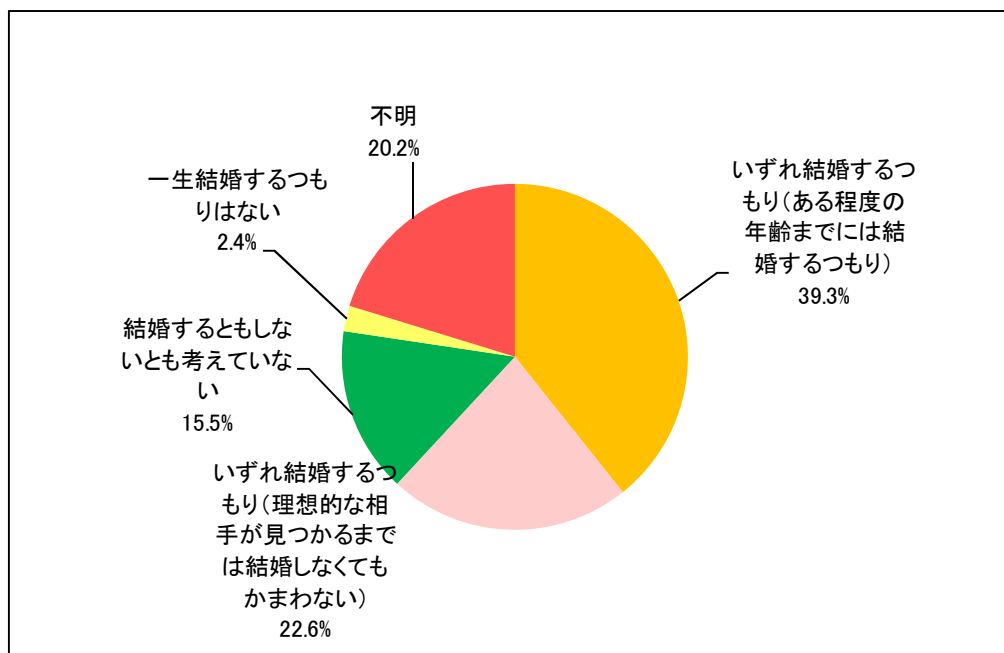
(n=312)

※ 結婚していない人のみ

問25	結婚について、どのように考えているか (SA)
-----	-------------------------

「いずれ結婚するつもり (ある程度の年齢までには結婚するつもり)」が 39.3%で最も多くなっています。一方、「一生結婚するつもりはない」は 2.4%にとどまっており、未婚化が進んでいるといわれている中で、結婚する意思のない人はごく僅かであるといえます。

しかし、「いずれ結婚するつもり (理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない)」は 22.6%あり、こうした考え方が晩婚化や未婚化に起因していると思われます。

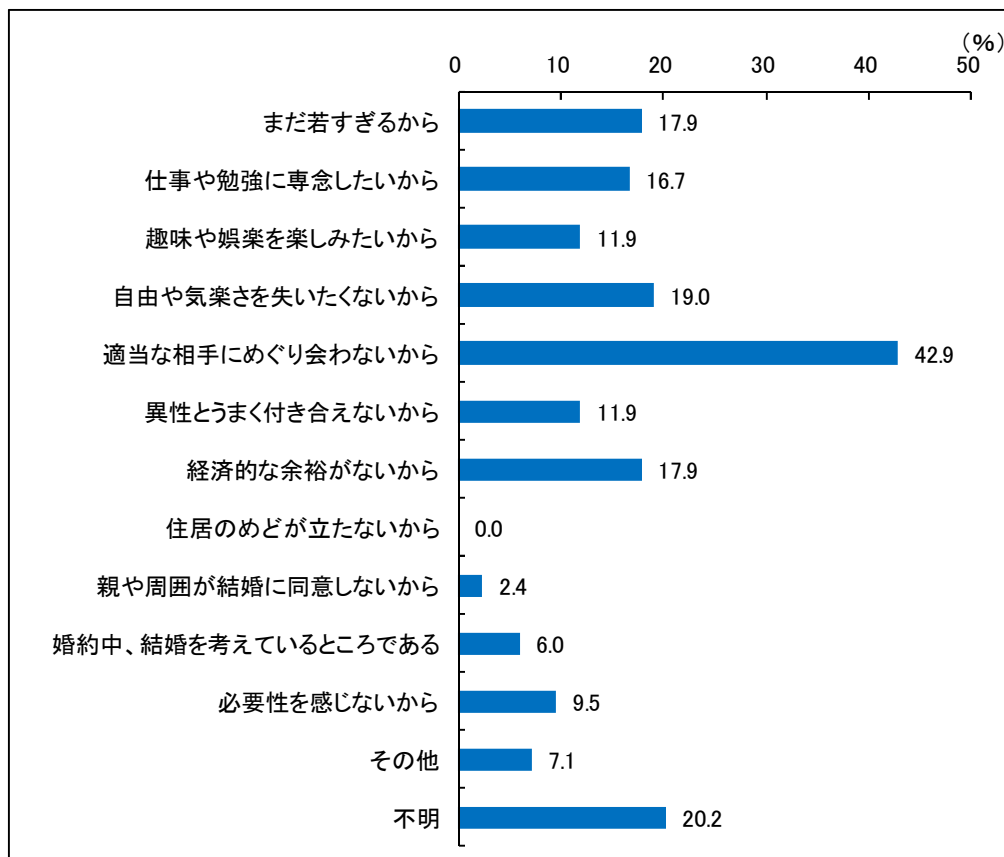


(n=84)

※ 結婚していない人のみ

問26	どのような理由で結婚していないのか (MA:3つまで選択)
-----	-------------------------------

「適当な相手にめぐり会わないから」が42.9%で最も多く、他の項目を大きく上回っています。

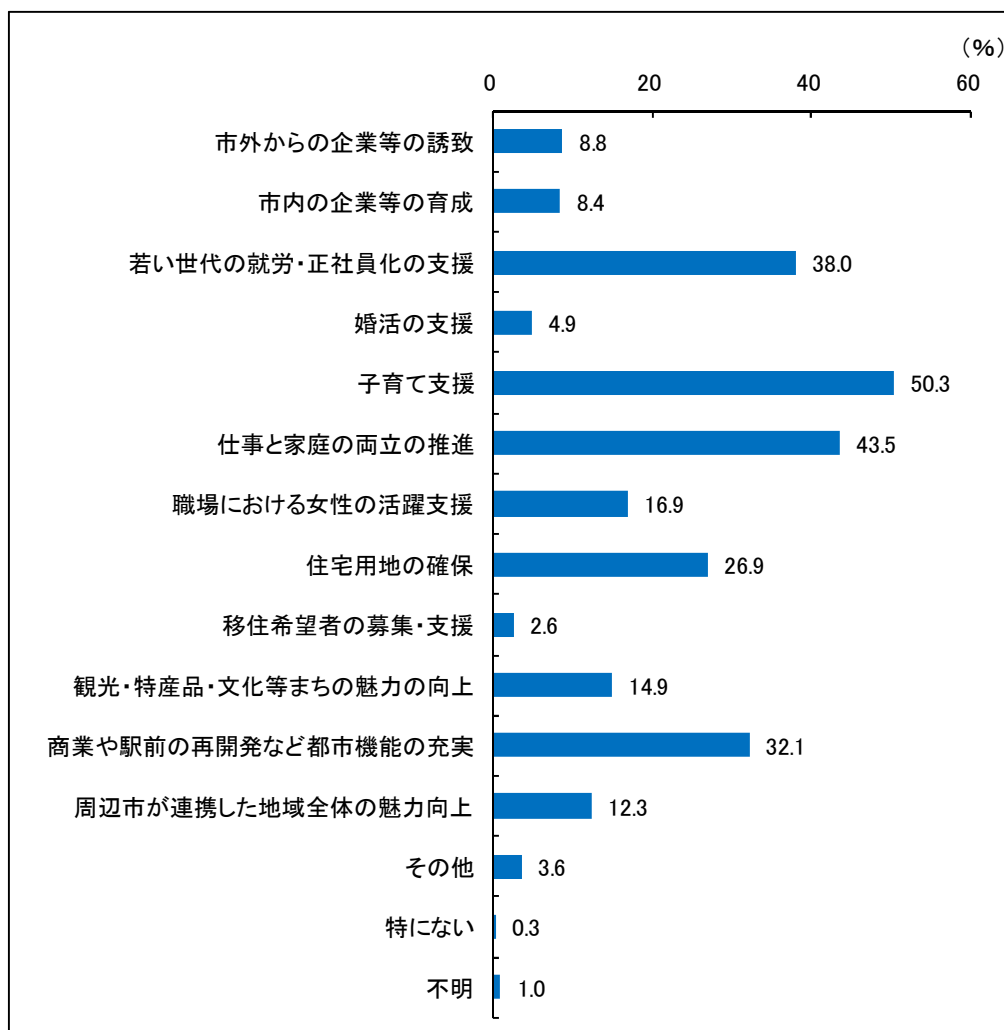


(n=84)

(4) 若い世代が暮らしやすい安城市をつくるために

問27	若い世代にとって暮らしやすい安城市をつくるために充実する必要があること (MA:3つまで選択)
-----	--

「子育て支援」が50.3%で最も多く、次いで、「仕事と家庭の両立の推進(43.5%)」、「若い世代の就労・正社員化の支援(38.0%)」が上位3項目となっています。



(n=312)